

柑子こうじ一百・昆布こんぷ・海苔かいばい・於お胡こ等らのすゞの物、はるばるとわざわざ山中へをくり給ひて候。ならびにうつぶさの尼にごぜんの御ごこそで一つ給ひ候ひ了らぬ。

さてはかたがたのをほせくはしくみほどき候。抑おさ 仏法ぶつぽうをがくする者は大地みじん微塵みじんより多をほけれども、まことに仏ぶつになる人は爪そじょう上の土つちよりもすくなしと、大覚だいかく世尊せそん、涅槃ねはん經きやうにたしかにとかせ給ひて候ひしを、日蓮にっれんみまいらせ候ひて、いかなればかくわかたかあるらむとかがへ候ひしほどに、げにもさるらむとを思もう事候。仏法ぶつぽうをばがくすれども、或あるは我が心の愚をろかなるにより、或あるはたとい智慧ちゐはかしこきやうなれども師しによりて我が心の曲まがるをしらず。仏教ぶつぎやうをなをしくならいう事かたし。たとひ明師めいし並びに実經じつぎやうに値あひ奉りて正法しやうぽうをへたる人なれども、生死しんじをいで出仏ぶつにならむとする時には、かならず影かげの身にそうがごとく、雨あめに雲うみのあるがごとく、三障さんしやう四魔しまと申して七の大事たつと出現しげんす。設たひらくして六はすぐれども、第七しちにやぶられぬれば仏ぶつになる事かたし。其の六は且しかくをく。第七しちの大難だいなんは天子てんし魔まと申す物なり。設たひらく末代まくだいの凡夫ぼんぷ一代いちだい聖教せいぎやうの御心ごしんをさとり、摩訶まか止観しかんと申す大事だいじの御文ごぶんの心こころを心こころえて、仏ぶつになるべきになり候ひぬれば、第六天だいろくてんの魔王まわう此この事ことを見て驚おどきて云いはく、あらあさましや、此この者もの此この国くにに跡あとを止とどむるならば、かれが我が身の生死しんじをいづるかはさてをきぬ。又また人を導とどくべし。又また此この国土こくどををさへとりて穢土えいどを浄土じやうどとなす。いかながせんとて、欲よく・色しき・無色むしきの三界さんざいの一切いっけんの眷属けんぞくをもよをし仰おほせ下くだして云いはく、各々おのおののうのうに随したがつてかの行者ぎやうじやをなやましてみよ。それそれにかなわなずばかれが弟子でしだんな並びに国土こくどの人の心の内うちに入りかわりて、あるひはいさめ、或あるは威をどしてみよ。それそれに叶かなはずば、我われみづから打ち下りて、国主こくぬしの身心しんしんに入りかわりてをどして見むに、いかでかとゞめざるべきと、せんぎし候なり。

日蓮にっれんさきよりかゝるべしとみほどき候ひて、末代まくだいの凡夫ぼんぷの今生こんじやうに仏ぶつになる事は大事だいじにて候ひけり。釈迦しやくか仏ぶつの仏ぶつにならせ給ひし事ことを経々あまたに数とかれて候に、第六天だいろくてんの魔王まわうのいたしける大難だいなん、いかに忍しのぶべしともみへ候はず候。提婆ていば達多たつた・阿闍あじや世王せわうの悪事あくじはひとへに第六天だいろくてんの魔王まわうのたばかりとこそみへて候へ。まして「如来にょらいの現在げんざいにすら猶なほ怨うら嫉し多おほし、況いはんや滅度めつどの後のちをや」と申して大覚だいかく世尊せそんの御時ごときの御難ごなんだにも、凡夫ぼんぷの身み、日蓮にっれん等らがやうなる者は片時かたとき一日いちにちも忍しのびがたかるべし。まして五十余年ごじゅうごねんが間まの種々しゆしゆの大難だいなんをや。まして末代まくだいには此こに百千万億倍ひゃくせんまんいっぴやくばいすぐべく候なる大難だいなんをば、いかでか忍しのび候べきと心に存ぞんじて候ひしほどに、聖人せいじんは未萌みぼうを知ると申して三世さんせいの中に未来みらいの事ことを知るをまことまことの聖人せいじんとは申すなり。而しかるに日蓮にっれんは聖人せいじんにあらざれども、日本国にっぽんこくの今の代よにあたりて此この国亡こく々たるべき事ことをかねて知りて候ひしに、此ここそ説仏ぶつのとかせ給ひて候「況滅度後めつどご」の經文きやうぶんに当たりて候へ。此こを申しいだすならば、仏ぶつの指ささせ給ひて候未来みらいの法華ほふわ經きやうの行者ぎやうじやなり。知りて而も申さずば世々よよ生々せいせいの間ま、をうし、ことゞもり生まれん上うへ、教主きやうしゆ釈尊しやくそんの大

怨敵、其の国の国主の大 讐 敵は他人にあらず、後生は又無間大城の人此なりとかんがへみて、或は衣食にせめられ、或は父母兄弟師匠同行にもいさめられ、或は国主万民にをどされしに、すこしもひるむ心あるならば一度に申し出ださじと、としごろひごろ心をいましめ候ひしが、抑 過去遠々劫より定めて法華経にも値ひ奉り菩提心もをこしけん。なれども設ひ一難二難には忍びけれども、大難次第につゞき来たりければ退しけるにや。今度いかなる大難にも退せぬ心ならば申し出だすべしとて申し出だして候ひしかば、経文にたがわず此の度々の大難にはあいて候ひしぞかし。

今は一こうなり、いかなる大難にもこらへてん。我が身に当てゝ心みて候へば、不審なきゆへに此の山林には栖み候なり。各々は又たといすてさせ給ふとも、一日かたときも我が身命をたすけし人々なれば、いかでか他人にはにさせ給ふべき。本より我一人いかにもなるべし。我いかにしなるとも心に退転なくして仏になるならば、とのばらをば導きたてまつらむとやくそく申して候ひき。各々は日蓮ほども仏法をば知らせ給はざる上、俗なり、所領あり、妻子あり、所従あり。いかにも叶ひがたかるべし。只いつわりをろかにてをはせかしと申しゝぎこそ候べけれ。なに事につけてかすてまいらせ候べき。ゆめゆめをろかのぎ候べからず。

又法門の事はさどの国へながされ候ひし已前の法門は、たゞ仏の爾前の経とをぼしめせ。此の国の国主、我をもたもつべくば真言師等にも召し合はせ給はずらん。爾の時まことの大事をば申すべし。弟子等にもなひなひ申すならばひろうしてかれらしりなんず。さらばよもあわじとをもひて各々にも申さゞりしなり。而るに去ぬる文永八年九月十二日の夜、たつの口にて頸をはねられんとせし時よりのち、ふびんなり。我につきたりし者どもに、まことの事をいわざりけるとをもて、さどの国より弟子どもに内々申す法門あり。此は仏より後、迦葉・阿難・竜樹・天親・天台・妙楽・伝教・義真等の大論師・大人師は知りてしかも御心の中に秘せさせ給ひて、口より外には出だし給はず。其の故は仏制して云はく、我が滅後末法に入らば此の大法いふべからずとありしゆへなり。日蓮は其の御使ひにはあらざれども其の時刻にあたる上、存外に此の法門をさとりぬれば、聖人の出でさせ給ふまでまづ序分にあらあら申すなり。而るに此の法門出現せば、正法像法に論師人師の申せし法門は皆日出でて後の星の光、巧匠の後に拙きを知るなるべし。此の時には正像の寺堂の仏像・僧等の靈験は皆きへうせて、但此の大法のみ一閻浮提に流布すべしとみへて候。各々はかゝる法門にちぎり有る人なればたのもしとをばすべし。

又うつぶさの御事は御としよらせ給ひて御わたりありし、いたわしくをもひまいらせ候ひしかども、うちがみへまいりてあるついでと候ひしかば、げざんに入るならば定めてつみふかゝるべし。其の故は神は所従なり、法華経は主君なり。所従のついでに主君へのげざんは世間にもをそれ候。其の上尼の御身になり給ひてはまづ仏をさきとすべし。かたがたの御とがありしかば、げざんせず候。此又尼ごぜん一人にはかぎらず、其の外

の人々も、しもべのゆのついでと申す者を、あまたをひかへして候。尼ごぜんはをやのごとくの御としなり。御なげきいたわしく候ひしかども、此の義をしらせまいらせんためなり。

又とのはをとゝしかのげざんの後、そらごとにてや候ひけん。御そらうと申せしかば、人をつかわしてきかんと申せしに、此の御房たちの申せしは、それはさる事に候へども、人をつかわしたらばいぶせくやをもはれ候はんずらんと申せしかば、世間のならひはさもやあるらむ。げんに御心ざしあるなる上、御所勞ならば御使ひも有りなんとをもひしかども、御使ひもなかりしかば、いつはりおろかにてをぼつかなく候ひつる上、無常は常のならひなれども、こそことしは世間法にすぎて、みゝへまいらすべしともをぼへず。こひしくこそ候ひつるに、御をとづれある、うれしとも申す計りなし。尼ごぜんにもこのよしをつぶつづとかたり申させ給ひ候へ。

法門の事こまごまとかきつへ申すべく候へども、事ひさしくなり候へばとゞめ候。たゞし禅宗と念仏宗と律宗等の事は少々前にも申して候。真言宗がことに此の国とたうどとをばほろぼして候ぞ。善無畏三蔵・金剛智三蔵・不空三蔵・弘法大師・慈覚大師・智証大師此の六人が大日の三部経と法華経との優劣に迷惑せしのみならず、三三蔵、事をば天竺によせて両界をつくりいだし誑惑しけるを、三大師うちぬかれて日本へならひわたし、国主並びに万民につたへ、漢土の玄宗皇帝も代をほろぼし、日本国もやうやくをとるへて、八幡大菩薩の百王のちかいもやぶれて、八十二代隱岐の法王、代を東にとられ給ひしは、ひとへに三大師の大僧等がいのみしゆへに、還著於本人して候。関東は此の悪法悪人を対治せしゆへに、十八代をつぎて百王にて候べく候ひつるを、又かの悪法の者どもを御帰依有るゆへに、一国には主なければ、梵釈・日月・四天の御計らひとして他国にをほせつけてをどして御らむあり。又法華経の行者をつかわして御いさめあるをあやめずして、彼の法師等に心をあわせて世間出世の政道をやぶり法にすぎて法華経の御かたきにならせ給ふ。すでに時すぎぬれば、此の国やぶれなんとす。やくびやうはすでにいくさにせんぶせむ、まくるしるしなり、あさましあさまし。

二月二十三日

日 蓮 花 押

み さ わ の